



東栄寺の仏像

濱名徳順師の調査から



令和元年度八千代市民文化祭

「ふるさとの歴史展」歴史講演 巖由美



はじめに

東栄寺の本堂の本尊は、不動明王ですが、古来から、病を癒す「薬師さま」が「秘仏」として伝えられてきました。

本堂左陣の位牌堂の中尊で、現状は「阿弥陀如来」のお姿です。

また薬師堂には十二神将などのすばらしい仏像群が並んでいます。

今回、仏像研究の専門家濱名徳順師にこれらの仏像を調査・鑑定していただきましたので、ご紹介します。



保品の星埜山東光寺

正面:本堂
左:薬師堂

東光寺の本堂内陣
現在は不動明王とその脇侍を祀る

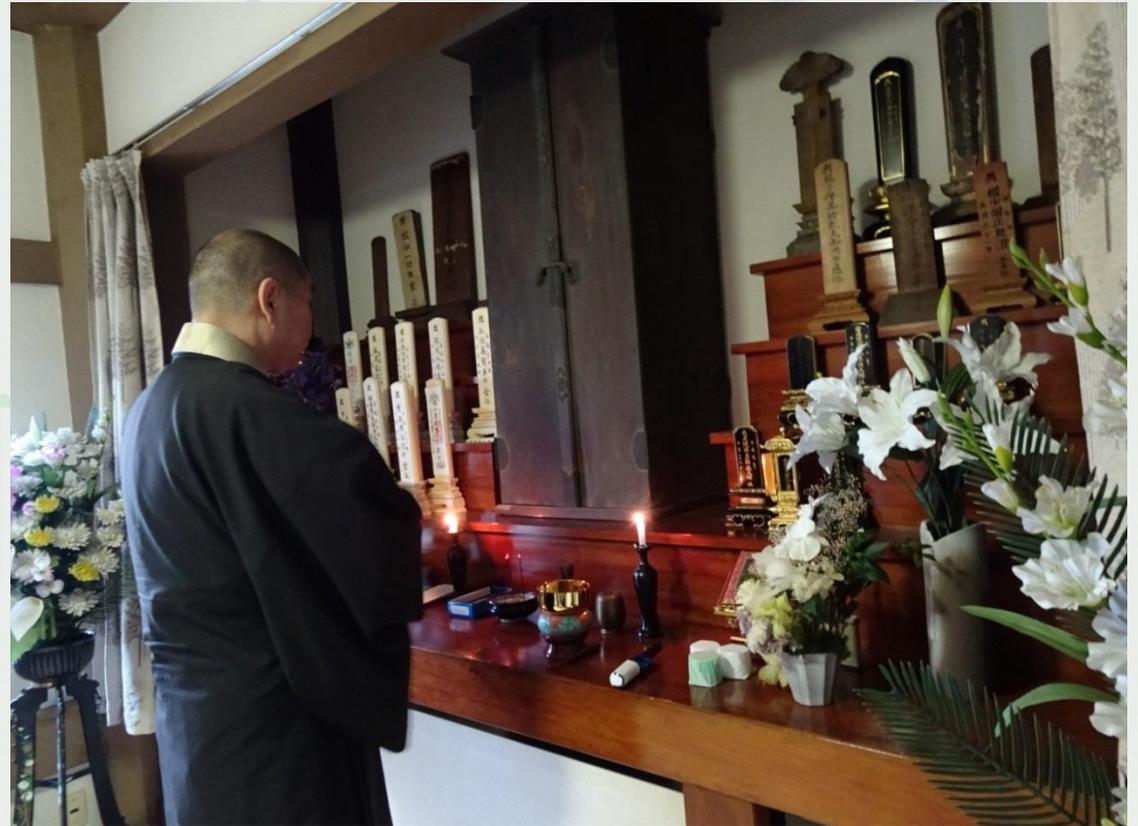


I 東栄寺の「謎の秘仏」

位牌堂の 阿弥陀如来像

(伝「薬師如来」)

本堂左陣位牌堂の阿弥陀如来像（伝・薬師如来）



如来像の特徴

頭が肉けいで、通常は髪が螺髪。（清凉寺式は同心円状の縄目の髪）

手は印を組む（釈迦如来は施無畏与願印、阿弥陀如来は来迎印が多く、薬師如来は薬壺を持つ）

出家した釈迦と同じく一枚の衣をまとうだけで、装飾品は一切身につけない。

納衣は普通は偏袒右肩、他に通肩との2種がある。（清凉寺式は通肩）

位牌堂の「阿弥陀如来立像」は、「薬師如来」との伝承、村上正覚院の「清凉寺式釈迦如来像」に似た頭髪、さらに江戸時代以前と思われる古いお姿から、「謎の秘仏」でした。

この像は、

- ①昭和62年（1987）八千代市教育委員会調査報告書『八千代市の仏像』では、「江戸時代」の「薬師如来立像」として、法量と各部位の概要、そして「全体に損傷が甚だしい」と記されているが、その写真では、薬壺を持たない来迎印の像である。
- ②平成5年（1993）、八千代市歴史資料館企画展「清凉寺式釈迦像と正覚院」において、「頭部が清凉寺式の類似像」として本像が展示され、その際に実見したところ「江戸時代」を遡る印象であった。
そのため、専門家による詳細な再調査の必要性を感じてました。



江戸時代

しい。

に古色。三道を彫出し、耳朶は環状を呈す。全体に損傷が甚

しい。

裾張 一八・五 足先開(外) 一〇・二

胸厚 一一・五 腹奥 一二・六

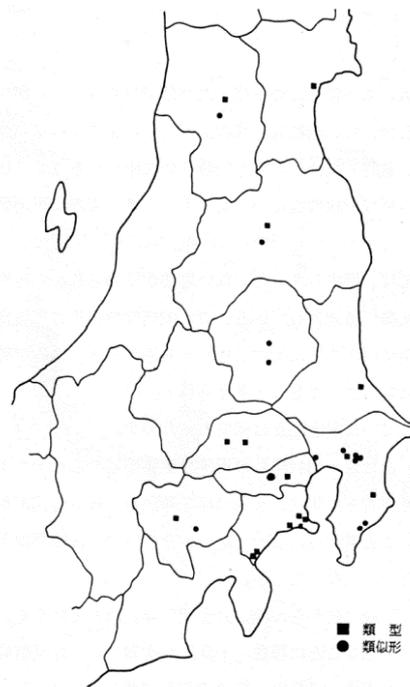
肩張 一六・〇 臂張 二一・六

面幅 七・五 面奥 九・五

髪際ノ顎 八・〇 耳張 八・五

〔法量〕 像高 六七・三 頭頂ノ顎 一四・四

8 薬師如来立像



清凉寺式釈迦如来像所在分布図

類似例をあげると市内では保品・東栄寺の薬師如来像がある。この像は頭部の縄目状のみあわし、他は通常の如来の像容をしている江戸時代の作である。他に鴨川市・滝山寺の薬師如来像と釈迦如来像、佐倉市・実藏院阿弥陀如来像、同市・密藏院薬師如来像、同市・正光寺薬師如来像、松戸市・旧一月寺阿弥陀如来像等はいずれも頭部のみを縄目状にあわしている。また阿弥陀如来像、薬師如来像など像様も製作年代もさまざま、はたして清凉寺式を意識した上での造立であるかは確定できない。



東栄寺薬師如来像



実藏院阿弥陀如来像



正覚院像胎内納入木造舍利塔

昭和62年(1987)

八千代市教育委員会調査報告書

『八千代市の仏像』の記載

平成5年(1993)

八千代市歴史資料館企画展

「清凉寺式釈迦像と正覚院」の資料

村上 正覚院の釈迦如来像



像の高さ 166cm カヤ材の寄木造り 鎌倉時代後期*の作
胎内に木造の仏舎利塔と、天文15年(1546)と延宝2年(1674)の
修理銘札を納入。昭和53年に修理された。

*極楽寺像を文永5年(1268)とみると、正覚院像は、永興寺像を経
ないで直接極楽寺像の影響を受け、その後、文永10年永興寺像、福泉寺
像が制作されたと考えられる(金丸和子『房総を学ぶ』2009)

(写真は2003.4.8撮影)

2019.5.7

本堂左陣位牌堂の阿弥陀如来像の調査





調査される濱名徳順師

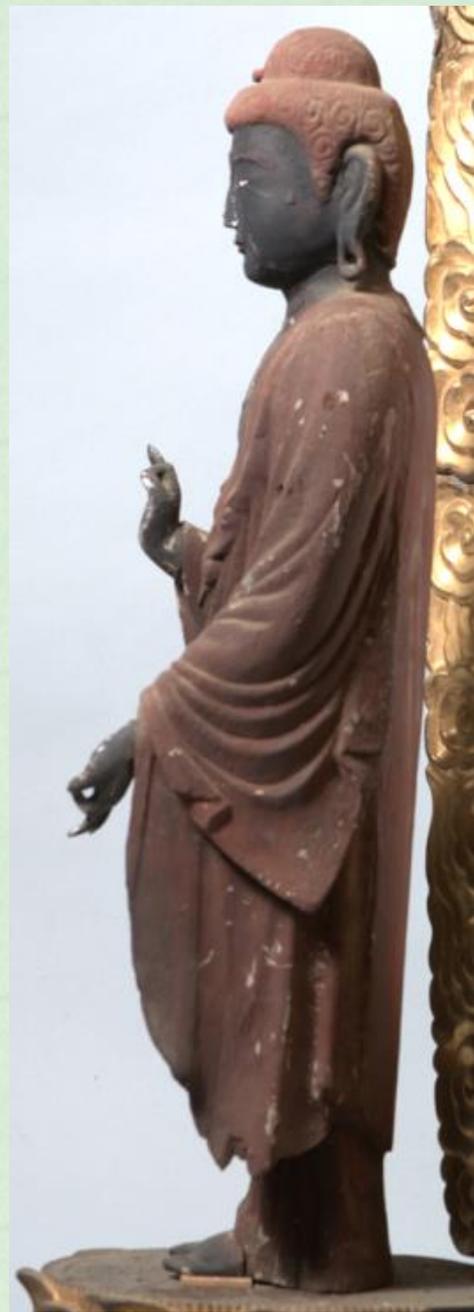






阿弥陀如来立像 (伝「薬師如来」立像)

濱名徳順師撮影





阿弥陀如来立像（伝薬師如来立像）について

-濱名徳順師の見解要旨-

- ・ 像高：67.7cm、髪際高：61.9cm（大略二尺）
- ・ 木造 櫃の**豎一材一木造り** 両体側部別材製
- ・ 頭部は肉髻相。
清涼寺釈迦如来風の同心円状の毛筋彫り
地髪部ほか側面から背後に掛けて
生え際に渦巻旋毛を現わす
- ・ 大衣を**偏袒右肩**に着用。衣文は宋風を加味。
- ・ 右手は肘を曲げ、親指と人差し指で輪を、
左手は親指と人差し指で輪を作る**阿弥陀来迎印**
- ・ 制作年代は、しっかりした肉身表現などから、
14世紀後半から15世紀前半頃と見るのが穏当







・当初この像は、薬師如来像との伝承がある。また薬師堂には十二神将像も遺存していて、これらが当初当像の眷属であった可能性も否定できない。

さらに中世の薬師信仰がしばしば天体信仰と習合するものならば、当寺の名称「星埜山東栄寺」は、薬師如来を本尊とする寺院にふさわしいものと言える。

・当像の面貌や頭髪が清凉寺式釈迦に倣ったもので、当初は薬師如来像であったとするならば、村上の正覚院の清凉寺式釈迦如来像や、畔田正光寺薬師如来像が特別な靈驗仏であるとの評判を聞き、その像容を頭髪表現等に採り入れて造像されたとするのが穏当なところではないか。

・印旛沼周辺は古代・中世においてその水運が活用され早くから開発が進んだ地域であったが、その臨水性ゆえに水害に見舞われることも多かったとされる。

そうした中で天空を制御する効験がうたわれる薬師如来の信仰が一带に古代より展開したことは周知の通りである。

切実な要望の中で、通常の薬師如来像よりもさらに強い靈験が期待されて産み出された像容と考える。



畔田正光寺薬師如来像

Ⅱ 東栄寺の 薬師堂のすばらしい仏像群

(十二神将 & 日光・月光菩薩)



平成十四年に改修された薬師堂の内陣には、薬師如来像（近代作か）が収められた厨子、そしてその両脇には、日光・月光菩薩の脇侍、十二神将が一体も欠けることなく立ち並び、その姿は壮観です。

これらの仏像群は、位牌堂の元「薬師如来」の脇侍と眷属であったと推定されます。

江戸時代の作ですが、優れた仏像群です。

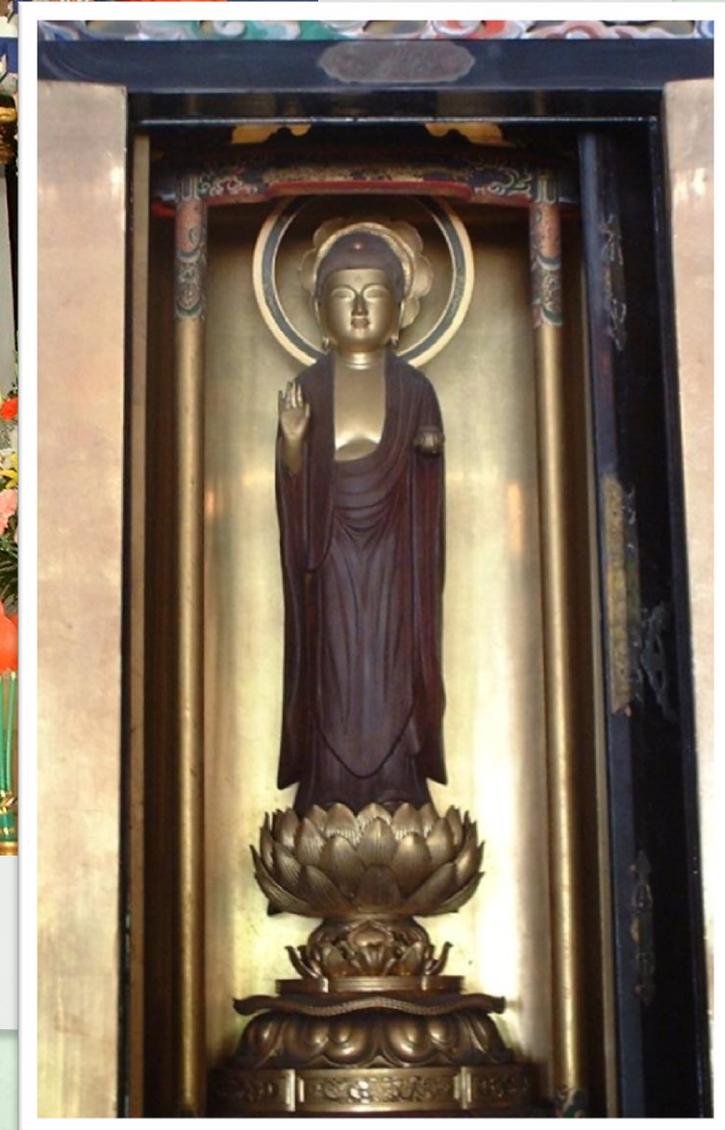




東栄寺の薬師堂は、平成14年（2002）改修工事を終え、5月26日、落慶法要が営まれました。

解体の際、屋根材から**宝永4年（1708）常州（茨城県）河内郡の大工七人と木挽き四人**が携わったとの墨書が見つかり、三百年に亘って地域の方々により、大事にされてきたお堂であることがわかりました。

「祈り込んで伝えてきた」（住職の挨拶）という薬師像脇侍・十二神将が、1体も欠けることなく堂内に並ぶ姿は、実に壮観です。



平成14年の落慶法要の御開帳された薬師堂内陣

2019.5.7 薬師堂内仏像の調査











子神



丑神



寅神

濱名徳順師撮影



卯神



辰神



巳神

濱名徳順師撮影



午神



未神



申神

濱名徳順師撮影



酉神



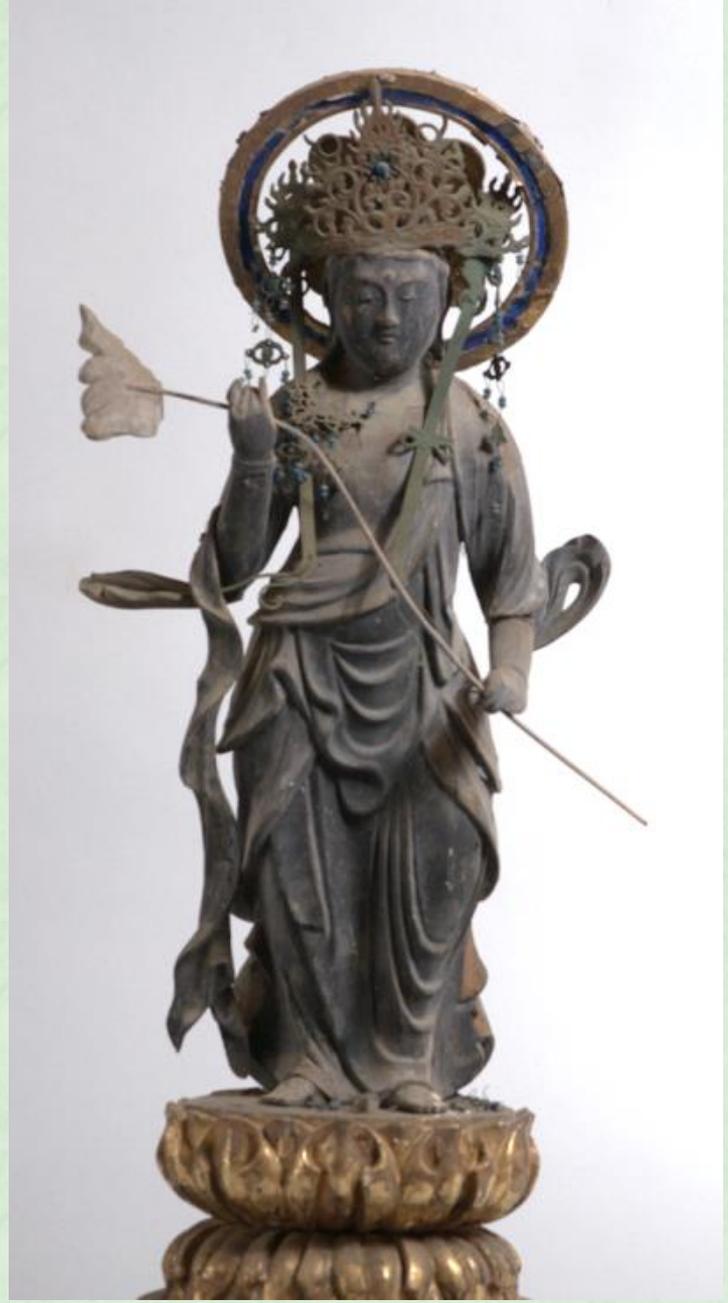
戌神



亥神



日光菩薩



月光菩薩

薬師堂の仏像群

十二神将

- ・像高はいずれも50cm弱、丁寧な内割りのある**寄木造り**。材は檜か。
- ・手慣れた造像で、作者は中央の仏師であろう。
- ・正面観にはなかなか颯爽とした趣。面部の飘逸味ある表情も優れている。
- ・側面観で腰回りが極太となることや足先の開き具合等に不自然さ。**鎌倉彫刻**のような写実性は見いだせない。
- ・江戸期の仏師が造像の参考にしたとされる『**仏像圖彙** (ずい)』 (元禄三年・1690 刊行) 所載の図と二体 (巳神・午神) を除いて持物が一致。これを参照した可能性が高いことから、**作期は江戸期に降るもの**と思われる
- ・二体 (辰神・亥神) の台座に「享」の墨書があることから享保年間の造像とするもの一案。
- ・**木造阿弥陀如来立像 (伝・薬師如来像) の眷属として造像されたものか。**

日光・月光菩薩

- ・日光・月光菩薩も50cmほどの像高、髪際で一尺五寸ほど。これも髪際高二尺の阿弥陀如来立像の脇侍に相応しい。
- ・**十二神将と日光・月光菩薩は一具の造像であった可能性もあろう**

Ⅲ 東栄寺の 仏像群の背景

近隣の清涼寺式釈迦像の面影を映す仏像
& 十二神将・脇侍群

清涼寺の釈迦如来像

釈迦が在世の折、忉利天という世界に暮らす亡き母に法を説くため、一時この世を離れることになった。

釈迦に深く帰依していた優填王は大変寂しく思い、釈迦の姿を写し取って、代わりの像を造らせたという。

この像はやがてインドから中国に伝わり、東大寺の学僧奝然（938～1016）が模刻させた像が永延元年（987）に宋から請来され、**京都市嵯峨野の清涼寺**に安置されるに至った。

以上の伝説から清涼寺本尊像は「三国伝来の釈迦」と呼ばれ、生きた仏（生身仏）として厚い信仰を受け、鎌倉時代には、真言律宗の叡尊・忍性によって広められた。

特徴点

- [1] 縄を編んだような頭髪
- [2] 身体の正面でU字状に同心円を描く衣文
- [3] 両肩を衣が覆う（通肩）



東栄寺の仏像群に関連する近隣寺院





清凉寺像の摸刻像は、生身性をもつ靈驗あらたかな靈像として信仰され、秘仏扱いも多い。

常総には、本格的な摸刻像のほか、頭髪が縄目状で、薬師如来や阿弥陀如来の姿の類似像が存在している。

特に、印旛沼周辺には、頭髪が縄目状の如来像が点在し、注目される。

清凉寺像の摸刻像

八千代市村上

正覚院の釈迦如来像

(八千代市指定文化財)



鎌倉時代末期の類似像 (頭部のみ清凉寺式)
佐倉市白井台 実蔵院の木造阿弥陀如来坐像
(佐倉市指定文化財)



鎌倉時代末期の類似像（頭部のみ清凉寺式）
佐倉市畔田 正光寺の木造薬師如来立像
檜材寄木造りで漆箔が施されている、室町時代と推定。
（佐倉市指定文化財）



佐倉市寺崎の密蔵院の薬師如来像と十二神将
本尊薬師如来は平安期・十二神将中8体は南北朝時代（14世紀後半）



十一 招 杜 羅 大 将 (巳)



十二 波 夷 羅 大 将 (辰)



十三 毘 羯 羅 大 将 (午)



十四 毘 羯 羅 大 将 (未)



十五 毘 羯 羅 大 将 (申)



安底羅大将(中)

伐折羅大将

迦金羅大将

頰你羅大将(未)

底羅大将

おわりに

濱名徳順師の調査により、位牌堂の「阿弥陀如来立像」は、室町時代に遡る制作で、元は同心円状頭髪の像容をもつ靈驗性の強い「薬師如来像」であったと推定され、保品の中世史を物語る重要な文化財であることがわかりました。

薬師堂の日光・月光菩薩と十二神将は、位牌堂の元の薬師如来像の脇侍・眷属として、（宝永の改修に際して）江戸時代に整えられた可能性があります。

今後、八千代市内の優れた仏像群として保護し、後世に伝えていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。